

名作再読、拾い読み (33)
『善人はなかなかいない』
 (“A good man is hard to find”)
————— 小澤文彦 25

おこしやす、図書館へ
「言語学、はじめの一步 (25)」
————— 入学直哉、藤井達也 26

日本の歴史44
『江戸日本の転換点：
水田の激増は何をもたらしたか』
————— 稲垣宏行 27

Book Review Corner ————— 28・29

ちりめん本特集 (稀覯書展示会へのいざない)

ちりめん本の先駆者長谷川武次郎に協力した外国人たち — 30

本学図書館のちりめん本コレクション
————— 楸 31

一書店員の目から見た縮緬本
————— 猪股正孝 32

エンパシーを呼び起こした「ちりめん本」
————— 内田晃弘 33

ちりめん本の出版を支えた外国人
————— 工藤真央 34

ラフカディオ・ハーンと日本
————— 三好恵理 35

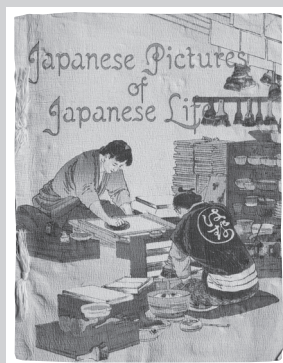
フランス語版ちりめん本と収納ケース
————— 栴 36

本学図書館のスペシャル・コレクションより (43)
ちりめん本の先駆者、長谷川武次郎に
協力した外国人たちの話
————— 奥 正敬 37~39

図書館利用案内

ライブラリー・カレンダー 2015 (10月~12月)
————— 40

● 表紙で紹介する貴重書



Takejiro Hasegawa (長谷川武次郎 著)
Japanese Pictures of Japanese Life
『絵でみる日本の人々の生活』
明治三十六(1903)年

この書物は「ちりめん(縮緬)本」です。明治時代が中期に至る頃から作られ始めたもので、江戸時代の浮世絵の画法を活かし、木版で和紙に刷り、刷り上がった紙に鑄造活字で英文など外国文字を印刷し、縮みを入れて和綴じで製本しています。よくご覧になると、紙面が縮緬状になっていることに気づいていただけます。

ちりめん本の英語版「日本昔噺シリーズ」で成功した長谷川武次郎(1853-1936)は、明治三十六(1903)年に自ら本書“Japanese Pictures of Japanese Life”(『日本の人々の生活』)を作りました。これは、明治二十八(1895)年の初版に続く増補2版ですが、初版と異なり表紙には木版刷りの場面を用いています。「ざんばら髪」の男性と江戸時代からの「まげ」を残して印禅纏を着た職人の絵は、時代が推移する中で伝統技術を使って作る新しい書物「ちりめん本」を象徴する構図とも考えられます。ここには、ちりめん本を作る場面だとは書かれていませんが、武次郎は無言でその場景を外国人へ示したかったのかも分かりません。

また、本書では「火消しの出初め式」をはじめ、「結婚式」、「葬儀」、「相撲」、「大工の仕事」、「町の風景」、「夜の通り」、「大原女」などを、長谷川系の主力絵師であった新井芳宗に描かせ、著者武次郎による簡潔な説明が添えられています。

本書は、外国人からのちりめん本の評価に自信を得た武次郎が、日本文化のさらなる海外発信に意欲をみせた書物と見なすことができます。

なお、本書が刊行されたのは日露戦争の開戦を翌年に控え、国際的な緊張感が高まっている時期でした。(萩)

形態：8葉 19.4×14.7cm

————— 本書はスペシャル・コレクション —————
「ニッポナリア(西洋言語による日本研究書)」
————— に含まれています —————